

O-2-7-14 ヘビースモーカーのインプラント治療症例

○渡辺 悦子¹⁾, 吉井あい子¹⁾, 渡辺 孝夫²⁾, 山内 大典²⁾
医療法人恵生会 厚生歯科¹⁾, 神奈川歯科大学 人体構造学講座²⁾

A case of implant treatment with a habit of smoking

○ WATANABE E¹⁾, YOSHII A¹⁾, WATANABE T²⁾, YAMAUCHI D²⁾
Kosei Dental Clinic¹⁾, Anatomy, Kanagawa Dental College²⁾

I 目的: 1日40本の喫煙習慣をもつヘビースモーカーに、禁煙を約束した上でインプラント治療を行なった。しかし、患者は内密に喫煙を継続、一部のインプラントの動揺および洞内迷入が発症した。インプラントの再植立は家族を含め格的な禁煙を確認した上で行なった。本研究の目的は、本症例を通してインプラント治療に対する喫煙の影響と禁煙の重要性を検討することである。

II 材料ならびに方法: 症例66歳男性。身長170cm, 体重67kg。嗜好, 1日40本の喫煙, 飲酒なし。初診日, 2003年9月9日。主訴, 上下の義歯をかめるようにしたい。既往歴, 特になし。全身状態, 貧血あるが出血傾向なし。COPDと思われる軽い喘息様症状あり。現病歴, 若い時の虫歯の治療痕がきたなかったため上顎は全部冠にした。口腔内所見, 衛生状態良好。口渇感あり, 中等度の歯周病。清掃は興味がありしっかりやるが補助道具などは使用していない。上顎は右上76321, 左上156欠損で部分床義歯が, 下顎は右下7から左下7まで欠損, 全部床義歯が装着されていた。治療経過, 同年9月より2004年6月まで4回にわけて右上76321, 左上1678, 右下7654321, 左下234567に骨内インプラントを植立した。その後, 2004年9月に左下46のインプラントが動揺, また, 右上6のインプラントが上顎洞に迷入がみられた。

III 結果: 脱落, 迷入は喫煙の影響が大きいことを説明して家族を

含めて禁煙の確認し, 除去, 再植立した。ブリッジ型上部構造を2005年上下顎に装着した。その後は定期的に口腔衛生指導およびメンテナンスを行い, 禁煙は守られているようです。

IV 考察および結論: 本症例のインプラント脱落の原因として喫煙を疑われた。禁煙の確認は自己申告だけでは不十分であり, 家族を含めての禁煙の約束と本人及び医療スタッフの自覚が有効であったと考えられた。その為, 現在, インプラント患者への禁煙治療の導入を考えている。